

生物機能を活用した果樹カメムシ類の減農薬防除体系の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所 足立 碇

2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

3 研究目的

果樹カメムシ類は多くの果樹に甚大な経済的損害を引き起こしており、飛来予測に基づく適時適切な減農薬防除体系の確立が求められている。このため、果樹カメムシ類の飛来をモニタリングするためのトラップの開発並びにそれらの設置法を開発するとともに、果樹園以外の場所へカメムシを誘導して殺虫する誘導防除法を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 新型トラップの開発に関する研究（千葉県農業総合研究センター、信越化学工業（株）、（独）果樹研究所）
フェロモン等を誘引源とするより高性能で省力的な乾式トラップを開発する。
- ② 新型トラップ設置法に関する研究（千葉県農業総合研究センター、長野県南信農業試験場、福岡県農業総合試験場、（独）果樹研究所）
広域メッシュ方式等の手法の開発並びに発生量及び移動実態の分析法を開発する。
- ③ 誘導防除法に関する研究（千葉県農業総合研究センター、長野県南信農業試験場、福岡県農業総合試験場、（独）果樹研究所）
これまでに開発されたプロトタイプの誘導防除装置を基に、より高性能で環境に優しい誘導防除装置を開発する。

5 目標とする成果

果樹カメムシ類に対する広域高精度発生予測法並びに誘導防除法が確立される。これにより、カメムシ類による経済的損害が大きく低減されることに加え、果樹園における農薬の過剰散布が回避され、天敵類を活用した環境調和型害虫管理の一層の促進が期待される。